

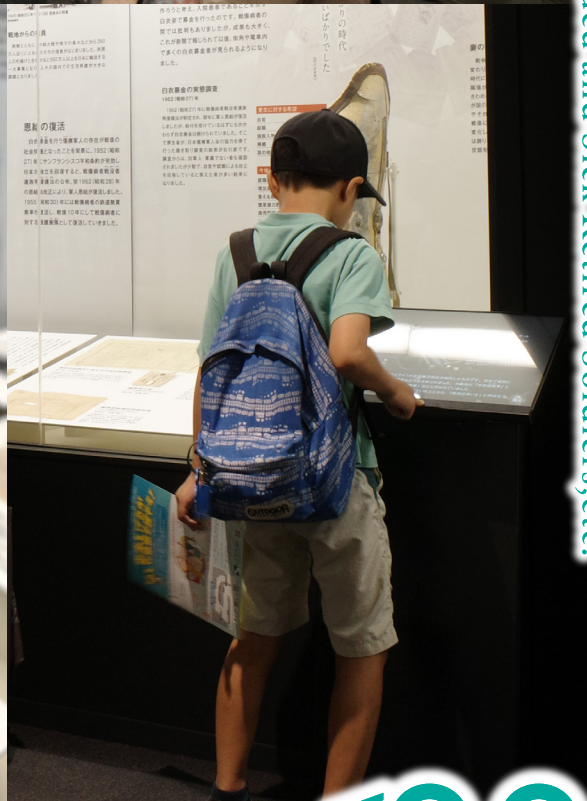
戦傷病者史料館

# しょうけい館 通信

戦後80年をこえて



Historical Materials Hall for the Wounded and Sick-Retired Soldiers, etc.



## TOPICS

P2 令和7年度 特別企画展

P3 図書室から「利用のご案内」

P5 関連施設との連携

Vol. 005

December 2025

戦後80年である今年の夏は、例年になく多くの方々に来館いただきました。

戦後80年特別企画展「武良茂(水木しげる)の戦争体験」や「ゲゲゲの鬼太郎館内謎解きラリー」、「語り部夏の集中講話会」は、大盛況のうちに会期を終えることができました。

秋からは、館設立以来収録を続けてきた証言映像に関する企画展の開催や、デフリンピックの開催に合わせた語り部講話の字幕表示など、多様な取り組みをおこなった1年となりました。

※表紙写真 上(戦後80年特別企画展「武良茂(水木しげる)の戦争体験」と、「語り部夏の集中講話会」)

下(「ゲゲゲの鬼太郎館内謎解きラリー」で常設展示室のガラス面に付けたクイズのヒント(写真左)、参加する小学生の来館者)

## 次世代の語り部講話の活動紹介

## オールウェルカムTOKYOへの参画

2025年の秋、東京で「世界陸上」と「デフリンピック」の2つの国際大会が開催され、多様な人々が社会に参画する意識が高まりました。こうした中、両大会の開催時期を中心とした9月～12月まで、東京都と公益財団法人東京都歴史文化財団は、障がいの有無や言語の違いを超えて誰もが芸術文化に触れることができるように「オールウェルカムTOKYO」というキャンペーンで、さまざまな鑑賞の

サポート等を実施してきました。

当館もこの取り組みに賛同し、毎月第2日曜日開催の語り部定期講話会において、語り部が使用する画像やスライドに講話内容の字幕を表示する取り組みを実施しました。



白衣の病院着姿だったことから「白衣募金」と呼ばれ、戦後の一時期の象徴でもありました。

語り部が使用するスライドに講話内容の字幕を表示



11月定期講話会の様子

## テーマ別展示

## 援護のあゆみ

援護行政のはじまり、国による戦傷病者に対する戦中の援護政策の充実、戦後のあゆみや戦傷病者同士の支え合いについて、資料とともに振り返ります。

**会期** 令和7年10月21日(火)より令和8年2月23日(月)まで  
**会場** しょうけい館 3階常設展示室テーマ別展示コーナー  
**時間** 10:00～17:30(入館は17:00まで)



展示風景

## 特別企画展

### 戦後80年 特別企画展

## しょうけい館証言映像展 証言がつなぐ あの日の記憶

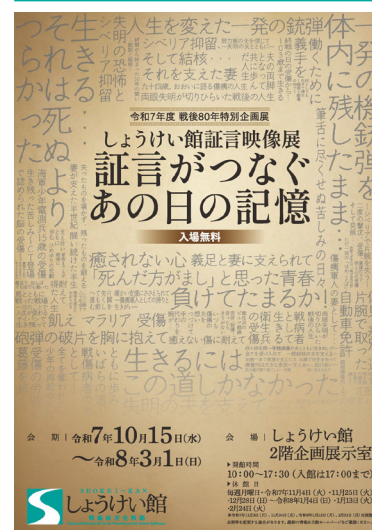
戦後80年を迎えた今年、戦争を体験した世代の高齢化は進み、いよいよ戦争体験者不在の時代が到来しつつあります。戦争体験の継承がますます重要な課題となる中で、彼らの体験を知る方法の一つに、証言映像があります。

当館は、戦傷病者やそのご家族、軍医や従軍看護婦などの医療関係者などを対象に、これまでに約200本の証言映像を収録してきました。証言映像は、体験の内容はもちろんのこと、それを語りかける表情に至るまで記録されているため、より実感をもって彼らの体験や思いに触れることができます。

本展では、映像を収録した証言者をパネルで紹介するほか、証言者から寄贈された資料を展示しています。また、シアターでは数十名の戦傷病者の証言映像を、テーマごとに再編集した総集編映像を上映しています。ぜひ生きた声を通して戦傷病者について知ってもらえればと思います。

**会期** 令和7年10月15日(水)より令和8年3月1日(日)まで  
**会場** しょうけい館 2階企画展示室  
**時間** 10:00～17:30(入館は17:00まで)

### チラシ



### 特別企画展



### 展示資料



## 利用のご案内

図書室では戦傷病者とそのご家族が体験した戦中・戦後のご苦労に関する体験記や、医療・衛生史、部隊史など戦争に関するさまざまな書籍を閲覧いただけます。

また、情報検索端末では資料の検索に加え、証言映像を視聴することもできます。

しょうけい館図書室はみなさまのご利用をお待ちしております。

### ● しょうけい館の図書室は2階にあり、どなたでも利用することができます。



▶▶ 図書室内には約4,600冊の書籍が並び、自由に閲覧することができます。それ以外に貴重書など約5,000冊を閉架書庫に所蔵しています。閉架書庫の書籍を閲覧するためには申請が必要です。

※書籍の館外貸出はおこなっておりません。

### ● 書籍は内容ごとに分類されています。



▶▶ 書籍は、日本十進分類法(NDC)をもとに、歴史、社会科学、医療、技術などに分類しています。その他、戦傷病者史料館として体験記、恩給関係、部隊史、国防・軍事なども見出しを設けて配架しています。

また、幅広い世代の方に活用していただけるよう、コミックや絵本のコーナーもあります。

## ▶▶ 注目書籍コーナー

### 体験記

さまざまな立場の方が、ご自身の体験した戦争について書かれた書籍のコーナーです。

\*戦傷病者体験記(戦争がもとでケガを負ったり、病気にかかった方の体験記)

\*海軍/医療・衛生体験記(戦時中、海軍で医療に従事されていた方の体験記)

\*陸軍/医療・衛生体験記(戦時中、陸軍で医療に従事されていた方の体験記)

\*看護婦体験記(戦時中、看護婦をされていた方の体験記)

\*戦争体験記(従軍経験の有無にかかわらず、戦争にまつわる体験記)



### 戦傷病者の作品

戦傷病者の方が詠んだ詩歌、描いた画集などさまざまな作品のコーナーです。戦傷病者でもある『暮らしの手帖』創刊者の花森安治さんの作品もこのコーナーに配架されています。



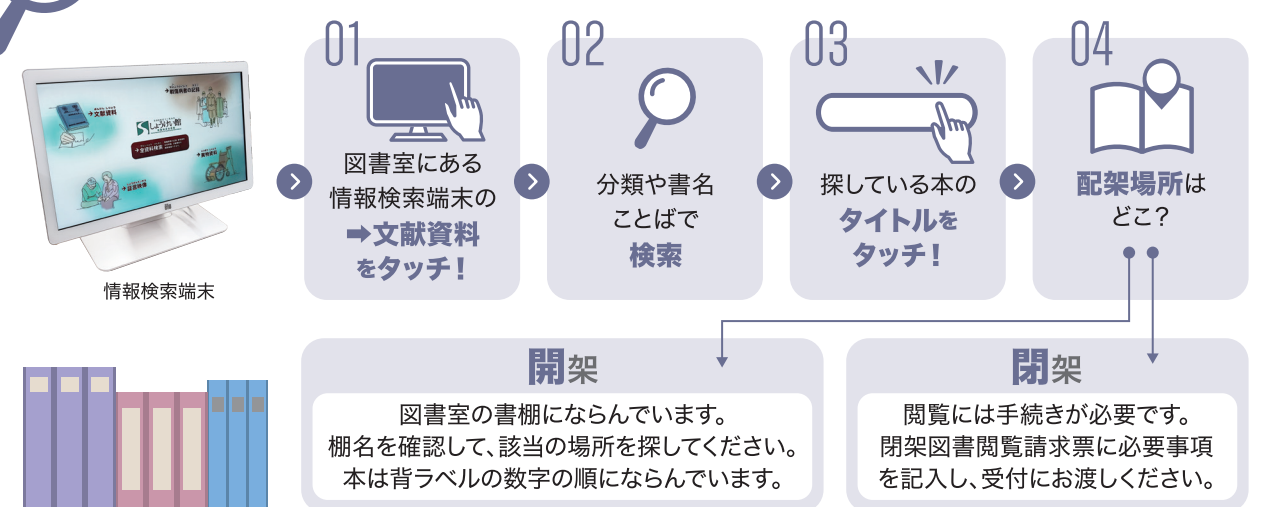
### 水木しげる

戦傷病者でもある、漫画家の水木しげるさんに関連する書籍を集めたコーナーです。戦争漫画や、ご自身の手記、また水木さんのご家族が書かれた手記も配架されています。



### Tips

### ～ 情報検索端末を使った書籍の探しかた ～



情報検索端末では、書籍の検索以外にも、**実物資料**や**戦傷病者の記録**が検索できます。また、**証言映像を視聴**することもできます。

※書籍は、しょうけい館ホームページの「図書検索」ページでも検索することができます。

## ▶▶ 国立ハンセン病資料館との共催企画

## 「戦後80年 戦争とハンセン病」

2025年7月19日(土)から8月31日(日)まで、国立ハンセン病資料館において、ギャラリー展「戦争とハンセン病」を開催しました。先の大戦とハンセン病をめぐる日本の歴史が、ハンセン病患者の隔離を強化し、戦争が隔離下の被害をより深刻にしたことを伝えるという趣旨のもと、しょうけい館は、ハンセン病となった戦傷病者の資料9点と、証言映像3本を展示・上映しました。

また関連イベントとして、学芸員によるトークイベント「戦争の記憶に触れ、それを継承すること」(7月26日)、しょうけい館の次世代の語り部による講話(8月2日、8月10日)なども開催しました。

展示、イベントともに多くの来館者にお集まりいただきました。多磨全生園に隣接する国立ハンセン病資料館という場所で開催されたことで、ハンセン病に関する常設展示等も見学することができ、理解が深まる催しとなったのではないかと思います。



チラシ



展示風景



トークイベント(映像ホール)

## ▶▶ 国立病院機構小倉医療センター

## 里帰り展示

2019年に、独立行政法人国立病院機構小倉医療センターから、13箱の摘出弾を寄贈いただきました。この資料は、しょうけい館の2022年度夏の企画展「戦場の軍医と衛生兵」にてお披露目の展示をおこないましたが、今年度は小倉医療センターが開院150周年を迎えるにあたり、1箱が里帰りして展示されることになりました。

この展示では多くの人に、病院の歴史と医師や患者のご苦勞を知っていただく機会となったに違いありません。



展示風景

画像提供:小倉医療センター

## ▶▶ 3館連携企画展

## 戦傷病者の労苦を伝える 秋田展

2025年9月29日から10月7日まで、秋田県立美術館県民ギャラリーにて、帰還者たちの記憶ミュージアム・昭和館とともに連携企画展を開催しました。今回の展示では、義肢・体験記・証言映像という3つのテーマで、戦傷病者の労苦に関する資料とその体験を紹介しました。地元秋田の戦傷病者を取り上げたこともあり、同じ地域の方々も戦争によって苦勞してきたことに思いを巡らせていただけたようです。



展示風景

## ▶▶ 夏のイベント

## 令和7年度 こども霞が関見学デー

毎年夏休みに霞が関で開催される「こども霞が関見学デー」は、こどもたちを対象に職場見学や業務説明などをおこない、親子のふれあいを深め広く社会を知る体験活動の機会としてもらうためのイベントです。今年は8月6・7日に開催されました。

しょうけい館は戦争によるケガや病気で苦勞した戦傷病者の経験が学べるプログラムとして、乃木式義手の体験や証言映像の上映をおこないました。

戦傷病者がケガや病氣のためにどれほど苦勞したのか、そしてその苦勞を乗り越えて生活を送ったことを多くのこどもたちに知ってもらうことができました。ご来場いただき、ありがとうございました。



イベントの様子

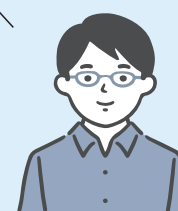
## 参加者の感想

学校の授業では分らなかった戦場の痛さと戦争の後のことがとても分かった。実際に自分の目で見ないと戦争の真の怖さ知ることができないと思いました。



10代男性

戦争が終われば平和が訪れると思っておりましたが、戦争に戦後も人の人生を苦しめ続けるということを実感しました。



30代男性

今年は戦後80年なので、小学生の子どもを連れて戦争について学びに来ました。新しい戦前、今を戦前にさせないために、私たちはどうすればいいのか。子供なりに考える機会にもなれたと思いました。



40代女性

## イベントスケジュール(予定)

10/15 水 ▶ 令和8年 3/1 日

しょうけい館証言映像展 証言がつなぐ あの日の記憶

10/21 火 ▶ 令和8年 2/23 月 祝

テーマ別展示 「援護のあゆみ」

令和8年 3/3 火 ▶ 5/31 日

春の企画展 「戦傷病者と結核」

令和8年 2/25 水

新常設展示「心の傷による労苦」

▶ ～4月(予定) ※テーマ別展示コーナーで拡充展示をおこないます

令和8年 1/11 日・2/8 日・3/8 日・4/12 日

語り部定期講話会(1～4月)

## 戦傷病者・ご家族へのお知らせ

### 資料寄贈のお願い

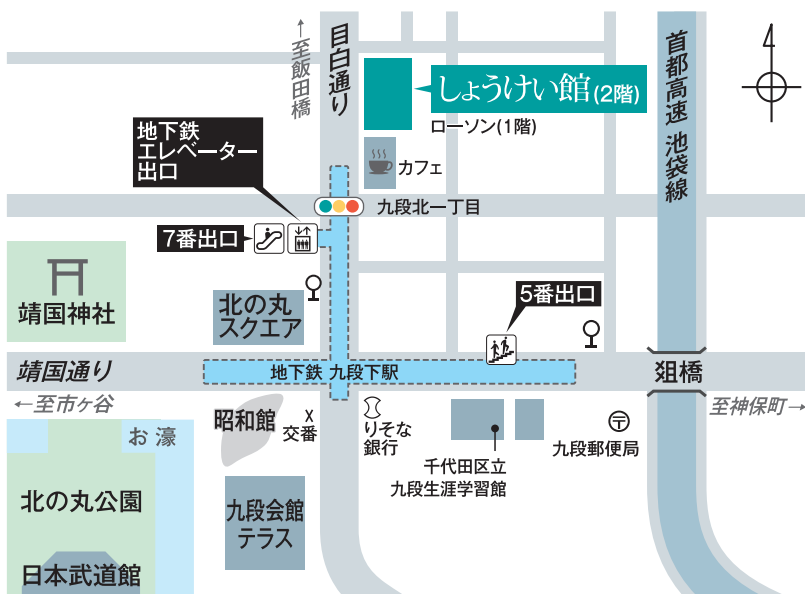
戦傷病者の皆様に関する資料(写真、回想記、軍装品、摘出弾、義肢、受傷や恩給に関する文書等)、奥様やご家族に関する資料(日記、写真等)、傷痍軍人会、妻の会に関する資料(会旗、名簿等)をお持ちの方からのご連絡をお待ちしております。

資料は館で大切に保管し、継承事業に活用させていただきます。

### 証言映像収録のお願い

証言映像は、戦傷病者とそのご家族の戦中・戦後の労苦を伝えるための貴重な資料として活用されます。引き続き当館では、証言映像の収録を進めて参りますので、年齢、地域にかかわらず、戦傷病者とそのご家族で撮影にご協力いただける方は、ぜひ当館までお知らせください。

## ご来館のみなさまへ



### 地下鉄を利用の場合

- 東京メトロ  
九段下駅(東西線・半蔵門線)  
7番出口より徒歩3分、5番出口より徒歩5分
- 都営地下鉄  
九段下駅(新宿線)  
7番出口より徒歩3分、5番出口より徒歩5分

### バスを利用の場合

- 都営バス  
九段下(飯64系統)より徒歩4分
- 千代田コミュニティバス  
千代田保健所(九段下駅)より徒歩5分

※駐車場はありません。公共交通機関をご利用ください。

当館は、戦傷病者とそのご家族が戦中・戦後に体験したさまざまな労苦についての証言・歴史的資料・書籍・情報を収集、保存、展示し、次世代の人々にその労苦を知る機会を提供する国立の施設として、平成18年に開館し、令和5年に移転しました。

